

## シャノアールの記憶

シャノアールの中村脩社長（当時）と最初にお会いしたのは2002年でした。取引の糸口を探して板橋本町のシャノアール本社に通った2度目だったと思います。その日の商談ルームで、たまたま通りかかった中村社長に購買担当者が声をかけたのです。取引があるわけではなく、商品の売り込みを目的に訪問していた私でしたが、短い時間を同席いただきました。その後何度か訪問しましたが、中村社長に同席していただくことも多く、コーヒーのことやコーヒーショップのこと、メニューのことなど、時々質問をいただきました。その中にテイクアウトカップの相談があり、後日お薦めしたいサンプルを持参したことがあります。その時にお聞きしたのが、ライバルとの差別化はもちろん、「お客様に安心してお渡しできるカップがいいんだよね」との言葉でした。「お客様もカップが弱いと不安だし、熱くて持てなければ飲むにも危ない。熱いコーヒーを提供しているからね」と続けました。

喫茶シャノアールが誕生した1965年5月といえば、まだ私が高校生の頃です。国産旅客機のYS-11が誕生した年で、戦前の航空機産業の復活を警戒するアメリカとの長い折衝がありました。その後、北海道内を移動する際に、丘珠-函館間や、丘珠-紋別間で何度か搭乗しています。プロペラ音が大きいものの、安心感がありました。何より大地に近い航路を飛ぶのが好きでした。北海道の大地はとても美しく豊かです。またその年で記憶に残るのは、ベトナム戦争の北爆が激しさを増す中、「ベ平連」（ベトナムに平和を！市民・文化団体連合）が結成されたことでしょうか。

その1965年に創業した喫茶シャノアールの名前の由来は、Wikipediaによれば、“フランス中世期のパリで、新進気鋭の芸術家たちがモンマルトルの丘のふもとにあるシャノアールというカフェに集い、雑談や議論を交わしていたとされているのを聴き、日本にもカフェ文化を根付かせたくカフェ事業を始め、カフェ文化の香りを受け継ぐ意味で、社名と店舗名をシャノアールとした”との少し長い文があります。その話のあらまは私も直接お聞きしていました。

中村脩社長がご自身の夢を形にした「喫茶シャノアール」は順調に成長し、1986年に50号店を達成しました。またその年に新業態の「カフェ・ペローチェ」を開発しています。「カフェ・ペローチェ」は先行するドトールコーヒーショップを追いかけるように走り続け、2003年に200号店となります。

カフェグッズの開業準備を報告したときに「なにか取引したいね」と言っていた中村脩社長の言葉が胸に残ります。取引はないものの懇意にいただき、声をかけていただきましたことを励みに、当時最適と考えたテイクアウトカップを持参しました。それが香港HUHTAMAKI社のダブルウォールカップです。二重カップの頑丈さと、リフトアップタイプのリッドの組み合わせは、スピーディーなサービスを目指した「カフェ・ペローチェ」に歓迎されました。



カフェ・ペローチェ新百合ヶ丘駅前店 1999.09 撮影

採用に当たっての問題を相談した私に、「では、うちが香港から直接買うよ、あとはそちらで決めて」と明るく笑うのです。相談したのは資金のことでした。香港に先払いで発注して輸入し、通関後に納入します。その後請求して入金となると、200店を超えるボリュームは、創業間もないカフェグッズでは資金負担が大き過ぎました。SOLOなどの輸入経験が私にそのリスクを教えてくれたのです。

カフェ・ペローチェ ダブルウォールカップ ➡



こうしてカフェ・ベローチェカップの取引が始まりました。その後何度も板橋本町の本社で中村脩社長と話す機会がありました。

・「小林君ね、僕の夢は自社の焙煎工場を建てて直営店を設置し、お客様が焙煎作業を眺めながらコーヒーを楽しめる場所を造りたいんだ。それが今まで喫茶シャノールやカフェ・ベローチェを支えてくれたお客様にお返しすることだと思う。そこではコーヒーの知識や情報を伝えたり、様々な楽しみ方を提案したりしたい」。

・「ギャラリーカフェのような形ですね。私が知る中では札幌苗穂の可否茶館・横澤社長の本社工場がそうです。45Kgの焙煎機が稼働していて、ガラス一枚隔てたカウンターでコーヒーを楽しめます」。

・「そうだね。既に焙煎工場用地も買ってあるんだ。千葉の湾岸エリアだけど、十分に広いよ」

・「現在納入されているコーヒー焙煎会社にはつらい話ですね」。

・「大丈夫、長いメリットが提供できるし、だめなら協力してくれるところもあるしね」。

そんな楽しい話をしたことを覚えています。その時が来るのを心待ちにしていました。

実際に(株)シャノールにはクラシフィカドール養成研修があり、ブラジル・サントス市に派遣して40日間に及ぶ研修が行われています。社員にクラシフィカドール（ブラジル・サントス市商工会議所のコーヒー鑑定士認定資格）の有資格者が既に複数名おり、自社焙煎を始めるときの中核を担うでしょう。

そして2004年が訪れます。10月13日に中村脩社長が脳内出血で倒れ、帰らぬ人となったのです。享年68歳でした。夢半ばでの突然のお別れとなった通夜の席で、おかけする言葉も見つかりませんでした。40年余りをコーヒー一途に走り続けた中村脩社長を思い、今回の「コーヒーを駆ける（創業者の夢）第一回」を書かせていただきました。

コーヒーに駆ける夢は、多くの先人たちを魅了してきました。その方々の永い努力と活動があり、人々はコーヒーのある豊かな生活を享受できたと思うのです。手が届きそうに見えながらも果たせなかった大きな夢が確かにありました。僅か3年余りという短い時間でしたが、その夢を共有できたことに感謝しつつ、思い出すこの頃です。

中村脩社長が目指した焙煎工場の取得用地には、2008年の本社移転と同時に、研修センターとテストキッチンが建設されました。

この「シャノール研修センター」は建築士・安宅研太郎氏の設計で、日本建築学会の2011年・作品選奨に選定されました。以下に受賞理由が詳しく述べられています。

<http://www.aij.or.jp/jpn/design/2011/pdf/sakuhinsensho10.pdf>

また建築概要は設計者の計画ノートに書かれています。

・アタカケンタロウ建築計画ノート

<http://ataken.seesaa.net/category/10095903-1.html>

中村脩社長の思い描いた夢の一つであった研修センターは、こうして評価の高い建築として実現されました。

中村脩社長、本当にありがとうございました。

© 2022.03.20 Cafegoods co., ltd. 小林文夫